



七月

八十七号

大藏省

口程は四之書來り山居三部少輔より
 出り再京都有之面二綴紙熟皮の如
 大板の棧前致幣占鏡道書樂之儀
 有京都有中出之物一尤之節と存心
 有之儀と致幣と書樂殿一とありて
 難在事の旨形七十等圓様如白雲生
 一乃々々社出給之旨致可然其
 事法が充全是之廣心と之事章



114
 A2858
 1

大正十一年四月
 大隈侯爵寄贈



大毫之而をいふは奉り物あり人民含社
 而導造為致或い入札ホ之而自然法固
 民分外用人ハ有後原ハ議ホ有之
 庶廉價由て由功可給之便等リ起
 一ハ乃有之然急務之ハ官公給之管
 二三款者之於有之條約之ハ第其ハお
 用ハ本石之想如道路橋梁之安免
 ホ之測ん之語之者而之於大毫之好舞

重之の強意切之終皆 従ハ入費ホ之
 其ホ考城其ハ中其ハ好舞之 其ハ其
 之ハ其語之之背ハハ誠力中ハ以整一ハ其
 之ハ其ハハ勿論為者人民之ハハ 物給
 抱ホ其 善法を生ホ一ハ其ハ其ハ其ハ其
 之ハ其奉官^唯其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
 而權利之備ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
 中立之振是又尤之其ハ其ハ其ハ其ハ其

械強又買入おとる支の多し 孫の廉價
 ありぬる事 凡そ河原の海戸ととも
 行去分人として
 河原の地味色 常布の事 而も六二五
 悉く程の難所を考へ 河原の山尾
 少補師京の事 於馬と取置可
 り 今在り回して 龍の旨置
 可波の若き者 中進り也

壬申七月廿三日 大藏省輔井之助

西院 中

困難之極也。此路之修築。其費之巨。其難之甚。其
 錢道之。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

社中も尾解、
 手平、
 形、
 此、
 亦、
 会、
 大、
 至、

年法如何も此條に集金するが交のみならず
大津お入社して彼を何款別に会社
とし結ぶ認詢りて其の鐵道会社を良き
所ありて此の次第なり

一右の次第に付て是れは會社も在るに
然る意を以て今日大津に其越松田にお對
面する所、關西一會社、關東一會社、の趣を
せも亦此の凡彼の爲に金に融通をせんとす

この事且根に之を決定し不決定とせば一旦
下民申問せざるはどき能く成るの事とて
後みりて附て之を何分する事との事とて
嗚呼可憐可憐

一善言申上り規則速に之を免可とて其の
名に此の事方能ありて政府に保証あり
速に之を賜哉

一前條の事は此の條より推して世に關西

冥西に社名ありて且視創り急に以て

と懸垂けしことなれ

前より中より後より扱とて思ふこと

しるすありとて述べて以て思ふこと

当地に神ありし如く而して川井の

多量に突し彼と云ふこと

く下三疑ひの生し中夜に

其力に後りて